

今年も6ヶ月経ってしまいました。昨年からは活動は低迷中でしたが、最近もあまり変わっていないような気がします。今年こそはいろいろやってやろうと思っていたのですが、なかなか行動が伴いませんでした。その大きな要因として天候と体力、時間でしょうか。昨年末の寒波以降、寒気の影響で冬としては予想以上に晴れた日が少なく、晴れても雲が多かったように思います。気温は低く、季節風は強かったし。

思うように行動できたのは、3月下旬から4月にかけてでしょうか。春特有のモヤや黄砂の影響で空の状態は良くなかったのですが、貴重な晴れ間となりました。5月に入ると連休も含めてあまりよろしくなかったようすし、6月にはいると例年より早い入梅となって、雨天の日が続いている状態です。また、晴れた日には満月近い明るい月があったりしたのは残念でした。

これまで天体写真は時間をかけて撮ってきましたが、近年は今まで通りに時間をかけてということが難しくなってきました。ガイド鏡を用いて手動で微調整するため、さすがに長時間はしんどい訳です。そのため昨年末からオートガイドにしようかと考えるようになり、そのための準備も進めてきました。コンセプトとして安価なシステムを利用することとしました。幸い自動導入はEM-200とSuperStarで行っているのですが、これにWebカメラと中古パソコン（現在使用のパソコンはさすがに古い）などを購入し、パラレルポート使用のためのコネクタを作成したりして、あとは実際に動かして検証をするまでとなっていました。（その後の天候不順で延期 中止状態）

そんな最中にビクセンのNA120Sという鏡筒を入手しました。ネオアクロマートということなのですが、アクロマートほどでは無いにしても青ニジミが出てきます。観望用というよりはガイド鏡としての使用を考えての購入だったのですが、ちょっと大きすぎた感があるしガイド鏡にはもったいないかも。

1月から3月にかけて休止している間にいろいろ考えることがあり（中略）3月末にはオートガイドによる天体写真撮影ではなく、変光星の観測をスタートすることになっていました。観測自体は以前行っていたことなので実際は再スタートなのですが、この観測で実に有効だったのが前述したNA120Sです。本来は眼視観測が基本なのですが、諸々の制約から写真観測（一眼デジカメで）ができないかと模索している最中なのですが、NA120Sの直焦でとった写野は、AAVSOのCチャートとDチャートの間くらいのスケールなので非常に使いやすいのが予想外でした。このために購入したのではないかと思うほどです。ISO1600+60秒の露出で、天頂付近では14等星くらいまで識別できるので、観測範囲は結構とれそうです。

測定の詳細はまだ検討中ということで試行錯誤していますが、撮影星数は自動導入のおかげで飛躍的に増えました。手動導入+眼視観測の場合は、導入に数分+測定に数分かかっていたのが、3分弱に1枚は確実に撮れるためかなりの時間短縮になりました。SuperStarへの登録数が100個のようなので、とりあえずミラ型数十個とUG型数個を登録して試写してみました（4月頃）。わずか1ヶ月の間でしたが、それなりに明るさが変化しているのを実感できるのは嬉しいことです。現段階では変化曲線は描けても変更曲線は描けないため、ここの整合性が今後の課題かな？。